

自分だけの音色で
心に響く演奏を



宇都宮短期大学附属高等学校
おおば あい
大場 藍さん（3年）

プロフィール

小学4年生の時にフルートを始める。今年9月に開催された、第41回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会フルート部門高校生の部に出場。

昨年9月に行われた、第41回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会フルート部門高校生の部で、大場藍さんが全国1位に輝きました。

本コンクールは、フルートやピアノ、声楽などの部門に分かれ、地方予選・本選の通過者が全国大会に出場できます。その通過率はわずか41%と、とても狭き門です。そのような厳しい予選を突破し、全国大会出場を決めた大場さんは、「緊張したが、うまく力に変えられた」と、伸びのある柔らかい音色で自由曲「カルメンファンタジー」を奏で、見事、頂点をつかみ取りました。また、大会ホームページ上で発表された審査結果を見たときのことを振り返り「1位に名前があつて、最初は驚いた。だんだんと実感が湧き、嬉しさが込み上げてきた」と笑顔です。

大場さんがフルートを始めたきっかけは、吹奏楽での演奏に憧れ、小学3年生の時に吹奏楽部に入学したこと。初めはクラリネットを担当していましたが、フルートの美しい音色に魅了され、フルートへの転向を決めました。

フルートの魅力を「繊細な音から、厚くて重みのある音まで奏

でられるところ」と話し、高校では、楽典や音楽史、ソルフェージュなどの授業が全授業の3分の1を占める音楽科で本格的に学び始めました。

また、週1回の個別レッスンの他、放課後に3〜5時間練習するなど、ひたむきに努力を重ね、同校でフルートを指導する栗田智水先生は「どんな難曲でも軽々と吹きこなし、美しい音色で心に響くような演奏ができる」と大場さんの演奏に目を細めます。

本格的に音楽を学び、向き合っていく中で、悩んだり苦しんだりしたこともあったという大場さんですが、自らが大切に行っている「楽しく演奏すること」を思い出し、1つひとつの試練を乗り越えていきました。その結果、コンクールで納得のいく演奏ができなかったときも「勉強になる新しい発見ができた」と前向きに捉えられるようになったと話します。

3月には大学受験を控える中、今後多数の全国大会に出場する大場さん。「聴いてよかったと思ってもらえる演奏家になりたい」と、これからも人の心を震わせる演奏を目指し、自分にしか奏できない音色を探し続けます。